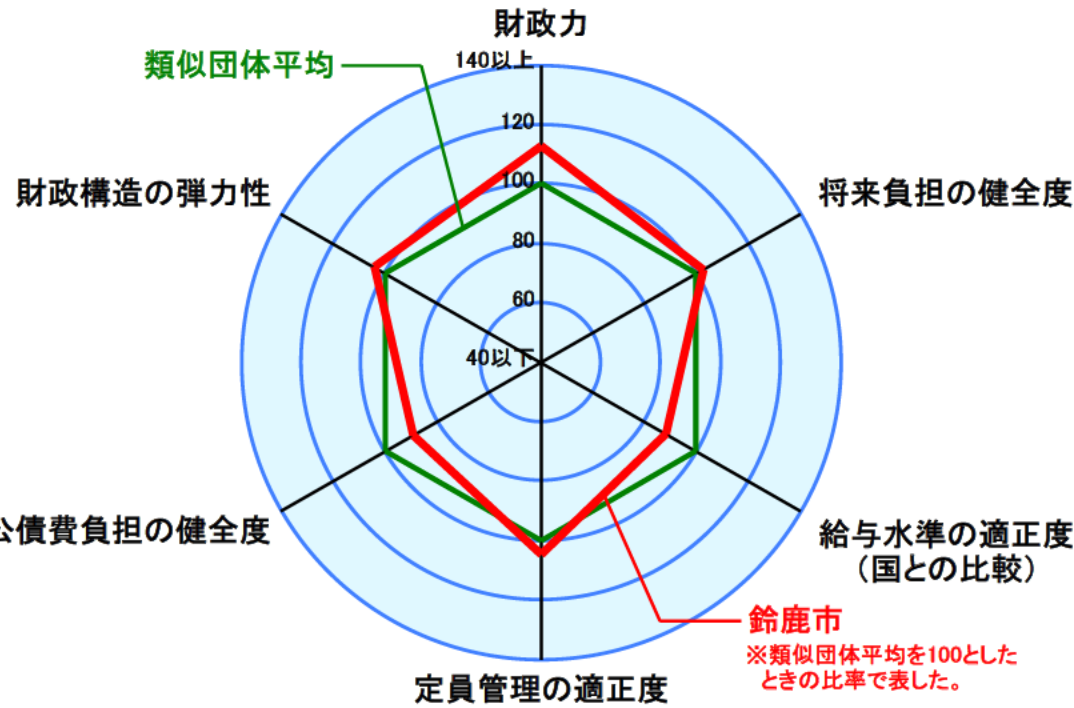


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

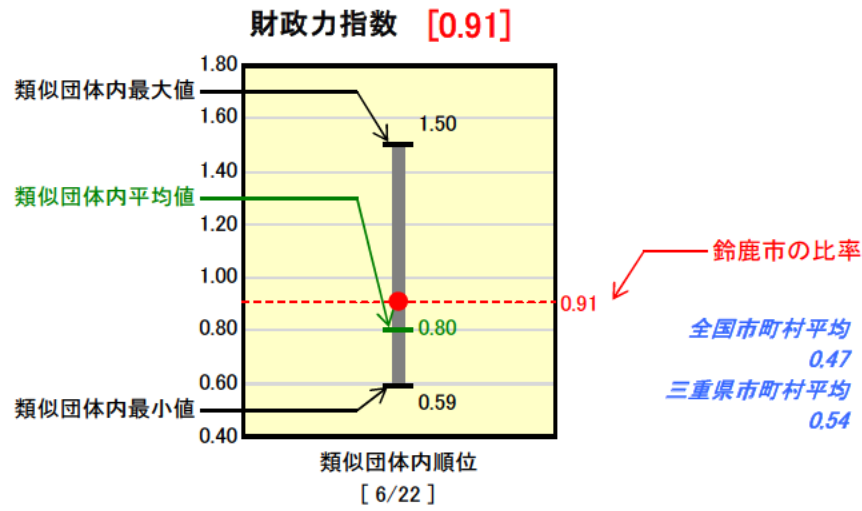
三重県 鈴鹿市

人口	189,640 人(H17.3.31現在)
面積	194.67 km ²
歳入総額	58,524,597 千円
歳出総額	56,725,341 千円
実質収支	1,437,169 千円

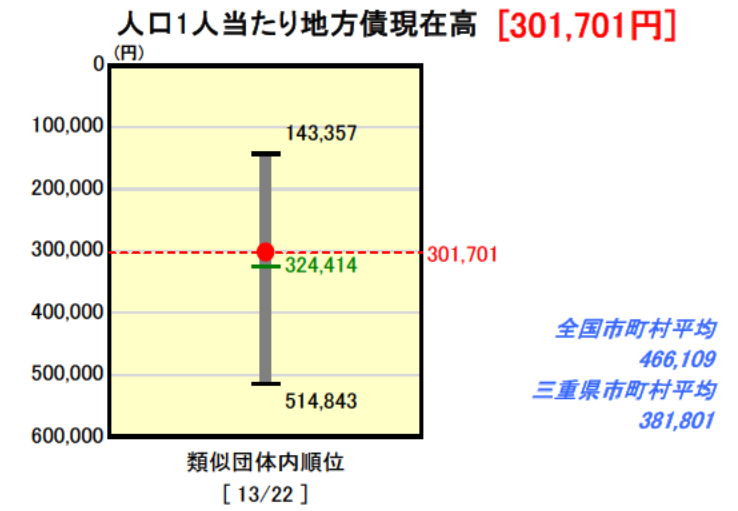


※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

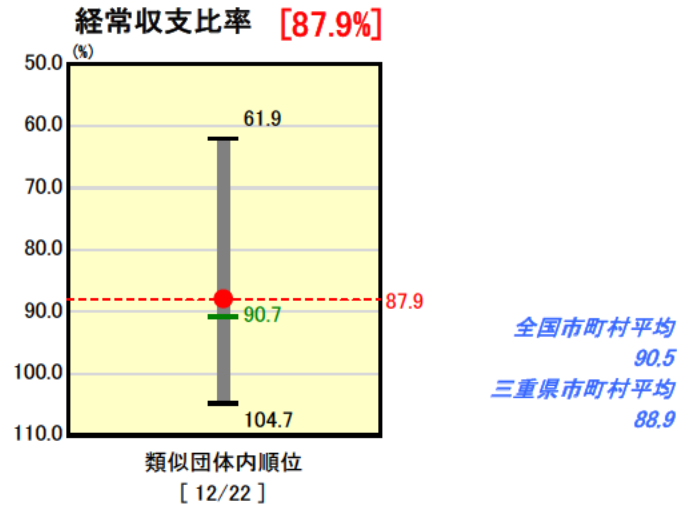
財政力



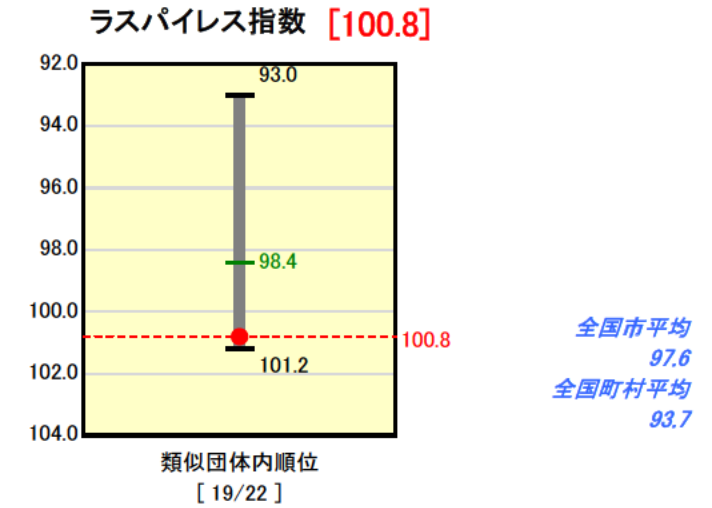
将来負担の健全度



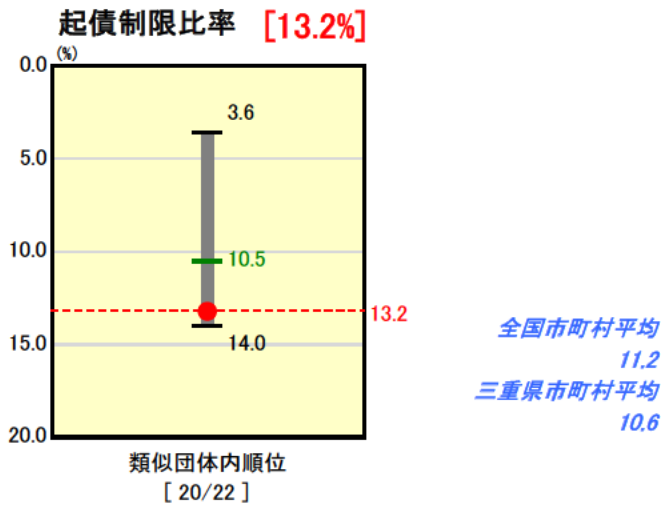
財政構造の弾力性



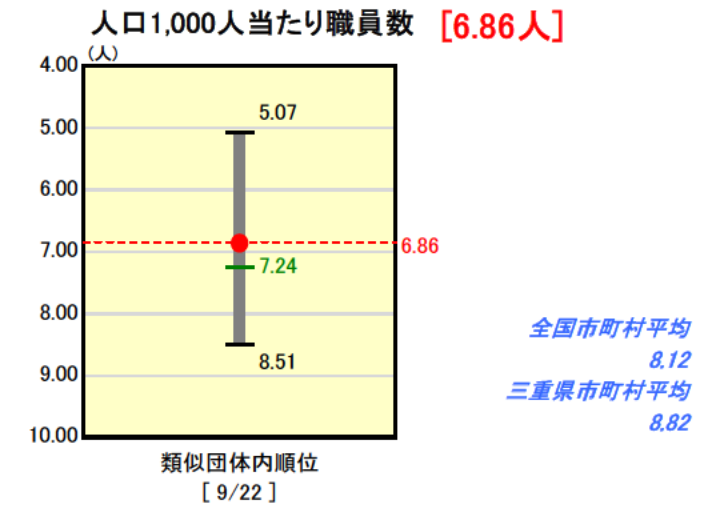
給与水準の適正度(国との比較)



公債費負担の健全度



定員管理の適正度



分析欄

【財政力指数】: 需要についての増減は小さいものの、収入においてここ数年の安定した法人市民税の結果も受け、本市では平成16年度より不交付団体となっている。

【経常収支比率】: 分子である経常経費充当一般財源等は、平成7・8年度減税補てん債の満期一括償還年度でしたが、一部借換えを行わなかったことにより経常支出が大幅な増となり、併せて分母の経常一般財源等に分類される税等について、法人市民税や地方譲与税は一定の収入が確保されている反面、地方交付税が大幅に減少しているため、一時的に比率が大きく伸びている。

【起債制限比率】: 平成7・8年度減税補てん債の満期一括償還年度において一部借換えを行わなかったことにより一時的に上昇しているものの、普通建設事業の抑制に努めていることから翌年度以降は平準化されていくものと考えられる。

【人口1人当たり地方債現在高】: 類似団体内平均、全国平均、県下平均のいずれも低い水準で推移しており、今後も適切な地方債管理を行うことにより健全な財政運営に努める。

【ラスパイレス指数】: 給料の適正水準に近づけていくよう努力し、時間外勤務手当についてはノー残業デーの実施及び時差出勤制の導入等により継続的な削減対策を図っている。また、各種手当の総点検を行うなど、より一層の給与の適正化に努める。

【人口1,000人当たり職員数】: 多様化する市民ニーズへの対応や市民サービスの向上、各部門の業務増、職員の健康管理等を考慮し、類似団体や定員モデル等の各指標との比較、官民の役割分担の視点から民間委託等での積極的な対応を図り、事務事業の精査により、組織・機構改革、退職による欠員補充の抑制に努め、職員数を削減する。